

長野県「学びの指標」から考える これからの学習評価のあり方とは

新教育課程編成の次なる課題として、多くの学校・教師が挙げるのが、学習評価だ。

長野県は2021年度、県立中学校・高校で「学びの指標」を試行する。検討にかかわった教師や外部有識者たちが振り返る、学びの成果を適切に評価するための同指標作成の背景や経緯、および今後の展望に耳を傾け、これからの学習評価のあり方を考える。

■ ■ ■ 生徒が自己の変容を
実感できる評価が重要

——先生方が考える理想の学習評価と、その実現のための課題を教えてください。

内堀 学習評価の役割は、生徒の学習の状況や成果を、教師が的確に把握し、授業改善等に役立てること、そして、生徒が自身の学習状況をメタ認知し、次なる学習につなげることにあると考えます。絶対評価や観点別学習状況の評価は、現行課程でも行われていますが、高校で学習評価と言えば、相対評価を思い浮かべる教師が現在も少なくないと思います。

偏差値などの相対的な指標は、進路指導等における活用の仕方次第で、生徒の学びの意欲を高めることに寄与する可能性もあります。一方で、その指標によって生徒は、時に保護者や教師の期待に応えられないことなどに苦しみ、学習意欲や自己肯定感を低下させるケースも見られました。偏差値や大学合格実績を偏重する評価観を改め、生徒一人ひとりの学びにつながるような評価観を構築する必要があります。

佐野 生徒の学習意欲を高め、一歩を踏み出したのかを明らかにし、目標や理想の実現に向けて進んでいくための教師と生徒の対話では、時に保護者や教師の期待に応えられないことなどに苦しみ、学習意欲や自己肯定感を低下させるケースも見られました。偏差値や大学合格実績を偏重する評価観を改め、生徒一人ひとりの学びにつながるような評価観を構築する必要があります。

土屋 学校行事や部活動で実績を上げることが、学習で成果を上げることは、どちらも等しく素晴らしいことであるにもかかわらず、進学実績の方に価値を置く教師や保護者は少なくありません。そうした価値観を変えることに加えて、

たとえ思うような結果を出せなくても、自身で目標達成に向けて努力した姿勢や、周囲と協働して取り組んだプロセス、そこで得られた資質・能力に価値があるといった認識を、学校や家庭で共有することが、評価観を変える第一歩になるのではないのでしょうか。

小村 学習評価は、学校外で設定された尺度に生徒をあてはめるものはありません。学校が何を目指すのか、生徒にどのように育ててほしいのかを、教師や保護者、その他のステークホルダーの共通理解の下に設定すべきでしょう。そして、その評価によって生徒が前向きになれたのか、教師が生徒

をより理解できるようになったのかということ、何度も問うべきです。

一方で、社会で生きていく限り、常に周囲からの評価がつきまといまふ。その意味では、どうすれば周りから自身への理解を得られるの



長野県教育委員会事務局 高校改革推進役 内堀 繁利 うちぼり・しげとし

長野県教育委員会高校教育課長、長野県上田高校校長等を経て、現職。中央教育審議会「新しい時代の高等学校教育の在り方WG」委員等も務める。



広島県・私立英数学館中学・高校 副校長 土屋 俊之 つちや・としゆき

教職歴21年。同校に赴任して1年目。「学びの指標検討会」に実践発表・助言者としてゲスト参加。

か、前向きに考えるマインドやスキルを持つことも必要です。生徒は理想の実現に向かって努力して

いることを教師に評価してもらえらるるよう努め、教師はそれをしてしつかり受け止めるといった関係づくりも、課題の1つになるでしょう。



東京都・私立かえつ有明中・高校 副教頭 佐野 和之 さの・かずゆき

教職歴27年。同校に赴任して7年目。「学びの指標検討会」に実践発表・助言者としてゲスト参加。



ベネッセ教育総合研究所 首席研究員 小村 俊平 こむら・しゅんぺい

「学びの指標検討会」座長。

■ ■ ■ 個人と社会の Well-being を目指す

——長野県では、まさに今挙げられた課題に取り組み、学習評価のあり方を構築しようとしていると伺いました。

内堀 本県では、2019年に外部有識者や県内の校長から成る「学びの指標検討会」を立ち上げ、これまでの学習評価が必ずしも生徒の学習意欲を高めるものになつていなかったという課題意識に基づき、育成を目指す資質・能力を整理して、学びの成果を適切に測る指標のあり方を検討してきました。そうしてとりまとめた新しい「学びの指標」は、その導入・活用によって、生徒個人と社会の Well-being を実現することを目的としています。

——具体的にどのような指標なのでしょうが。

内堀 「学びの指標」では、全県共通質問と学校独自質問を設定し、生徒に「自分自身をどう見るか」「なぜそう思うのか」を問います。全県共通質問は、県全体の学び

の充実度を検証するものであり、「自分なりの価値観や考え方をもっている」「これから先、どのように生きていきたいかを考えている」「自分にはよいところがあると思う」の3つです。学校独自質問は、各校が生徒とともに学校教育目標や特色に応じた内容を設定します

(P.20図)。

生徒に対しては、「面談や日常の対話などで活用することを想定しています。そのため、生徒や保護者とも「学びの指標」の理念と活用方法を共有します。また、本指標はあくまでも生徒の自己評価に用いるものであり、直接、各教科・科目の評価・評定に用いることはありませんが、教育課程の見直しや教育活動の充実に向けた検討時の活用が想定されます。

——21年度の導入にあたって、学校現場からはどのような反応がありましたか。

内堀 検討過程では、高校以外にも、大学や専門学校、中学校、企業、若者の自立支援を行う団体などと、広く語り合いました。学校だけを変えても意味がないのではない

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

かということも話題になりました。子ども一人ひとりを大切に、個性を尊重するといった価値観を、学校だけでなく、地域社会にも浸透させることが大切であり、それが学校教育を変える土壌にもなるという考えで一致しました。

ただ、その理念には誰しも賛同していただけでしたが、実際の運用方法や質問などについては、指摘をいただいているのも事実です。例えば、「評価観の転換は、指標を作れば実現するような簡単なものではない」「指標の質問自体に精神的に追い込まれる生徒もいるのではないか」といった指摘です。様々な意見があるのは当然であり、引き続き関係者と対話を重ねて共通理解を図るとともに、より実効性の高い運用方法を模索していきます。

■ ■ ■ 学校外にも「学びの指標」が浸透することを期待したい

——「学びの指標」では、褒めて励ますことを基本にしています。例えば、学習状況が芳しくない生

徒には、どういった支援を想定しているのでしょうか。

内堀 長野県の学びの改革では、学習者である生徒主体の学びへの転換を図っています。「学びの指標」でも、叱咤や方向づけではなく、生徒と教師が対話する中から、生徒が自分なりの答えを見いだすことが大事だと考えています。

佐野 経験が豊かな教師ほど、生徒個々に応じた指導をしますが、自身の考えを生徒に押しつけるの

ではなく、対話を通じて生徒に今後の自身のあり方を考えさせる支援が基本ではないでしょうか。

内堀 自立とは、自分の人生に責任を持ち、自分で判断して生きていくことにほかなりません。他者が一方的に要求や評価を押しつけて、自立が妨げられることこそが問題です。

小村 「学びの指標」をノウハウとして捉えれば、「褒めて励ます指導をしなければならない」と受

図 学校独自質問の参考例(抜粋)

質問項目の例	質問の例	出典
リテラシー	読解力・表現力	国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 一部抜粋
	科学的考察力	国立教育政策研究所 生徒の学習到達度調査(PISA) 2018年調査国際結果の要約 一部改
学ぶ力・学びを支える力	探究力・論理的思考力	福島県立ふたば未来学園 高校 ふたば未来学園で育てたい力(人材育成要件・ルーブリック) 一部改
	「自分軸」の確立	学校法人嘉悦学園 かつ有明中・高校 6年間で身につける知識と資質・能力 参考
社会性	キャリアデザイン力	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書
	シチズンシップ・社会貢献への能動性	日本や世界で問題になっていることについて、自分なりの考えを持っている
自己を認める力	自己効力感	日本財団 18歳意識調査 第20回社会や国に対する意識調査詳細版(日本) 一部改

※「長野県立中学校・高等学校 新しい『学びの指標』」を基に編集部で作成。
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/goannai/kaigiroku/r2/teireikai/documents/1071_h4.pdf

け止めがちです。しかし、「生徒の学びに向かう意欲を喚起する」という理念を押しえられれば、支援はどんなアプローチでもよいことが分かるはず。大切なのは、自己効力感や成長の手応えに結びつく評価を提供することであり、「学びの指標」が、その実現のための方を、教師が考えるきっかけになることを願います。

内堀 「学びの指標」は、各校の目標や実情に応じて運用されます。ポートフォリオやキャリア教育と関連づけて「学びの指標」を活用することを考えている学校もあります。「『学びの指標』の考え方は未来の担い手である生徒にとって大切なものである」と共鳴してもらえる学校を県立校以外にも増やすことも、今後の課題です。

土屋 学校外にも「学びの指標」が浸透することを期待しています。そうして、これからの社会を生き抜いていく上で必要な資質・能力の育成に努める学校に、より光があれば、同様の志を持って教育活動に励む全国の教師を勇気づけることにはなるのではないのでしょうか。